



審査結果報告書

平成 27 年 2 月 12 日

主 査 氏 名 高 相 勲 士 

副 査 氏 名 大 部 誠 

副 査 氏 名 益 日 典 幸 

副 査 氏 名 根 明 紀 

1. 申請者氏名 : DM11025 中島 裕康

2. 論文テーマ :

Prevalent and Up-regulated Vimentin Expression in Micropapillary Components of Lung Adenocarcinomas and Its Adverse Prognostic Significance
(微乳頭構造を呈する肺腺癌におけるビメンチンの発現および予後との相関)

3. 論文審査結果 :

全世界中において、原発性肺癌は悪性腫瘍関連死の主要な原因の一つであり、予後不良な疾患である。また、その中で最も多い組織型である肺腺癌の亜型として、micropapillary component を有する adenocarcinoma (adenocarcinoma with micropapillary component: 以下 AC-MPC) の概念がある。AC-MPC はリンパ管浸潤やリンパ節転移を来しやすく、予後不良であると報告されているが、その悪性度に関連する因子やメカニズムは未だ不明な事が多い。そのため本研究では、2次元電気泳動を用いた網羅的なタンパク質解析を行い、AC-MPC において高発現するタンパク質を同定し、そのタンパク質と臨床病理学的因子との相関を調査することにより AC-MPC におけるバイオマーカーを同定することを目的とした。

その結果、2次元電気泳動にて最も差異のある発現を示すタンパク質として同定されたのは vimentin であり、免疫染色でも AC-MPC において低分化型腺癌と同等の vimentin 高発現を確認した。また臨床病理学的に、AC-MPC における vimentin の高発現は、生存率及び無再発生存率に関与する独立した予後規定因子となりうる結果となった。Vimentin は、原発性肺癌において分化度に関与するタンパク質であり、AC-MPC は低分化な性格を有する腫瘍であることが確認され、その機序として脱分化が関与している可能性が示唆された結果となる研究であった。

本課題研究に関する審査会においては、申請者は質疑応答に適切に回答を行っており、知識・学力は十分であると判断された。従って、本研究は学位論文に値するものであると結論された。